

古河電工

古河電気工業株式会社

2022年3月期 第1四半期決算説明会

2021年8月5日実施

[登壇者]

1名

取締役 兼 執行役員常務 財務・グローバルマネジメント本部長

福永 彰宏

2021年度第1四半期決算のポイント

■ 売上高、営業利益

すべてのセグメントで増収*1増益

*1 銅価上昇の影響：+195億円（616円/kg→1,104円/kg）
「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等
適用の影響：▲88億円

■ 経常利益

営業利益の増益、持分法投資損益改善により増益

■ 親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益の減少（137→18億円）*2により、
親会社株主に帰属する当期純利益は42億円

*2 FY20_Q1特別利益：
固定資産処分益221億円

| | FY19_Q1 | FY20_Q1 | FY21_Q1 | 前年比 |
|---------------------|---------|---------|---------|------|
| | a | b | c | c-b |
| 売上高 | 2,263 | 1,765 | 2,188 | +423 |
| 営業利益 | 49 | ▲12 | 38 | +50 |
| 経常利益 | 39 | ▲15 | 58 | +73 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 23 | 78 | 42 | ▲36 |

(単位：億円)

福永：福永でございます。本日はお忙しい中、ご出席いただき、大変ありがとうございます。

それでは私より2021年度第1四半期決算についてご説明させていただきます。最初3ページでございます。

2021年度第1四半期の決算のポイントです。結果といたしましては、売上高2,188億円、営業利益38億円、経常利益58億円、親会社株主に帰属する当期純利益42億円という結果となりました。

売上高、営業利益につきましては、全てのセグメントで増収増益。想定よりやや上振れた結果となりました。経常利益につきましては、営業利益の増益、これに加えて主にUACJ社の持分法投資損益の改善ということにより増益となっております。

親会社株主に帰属する当期純利益に関しましては、特別損益の減少ということにより42億円という結果になっており、前年比ではマイナス36億円となっております。

ただし、前年度は銅管事業売却に伴う尼崎の土地の売却、こちらで221億円の特別利益がございました。本年度はこういった大きな特別利益ございませんので、その分減益になったというところでございます。

2019年度と比較いたしますと23億円から42億円ということで、約20億円改善しておるというところで、2019年度比で見ると順調な回復状況にあるとご認識いただければと思います。

2021年度Q1実績—要約P/L

■ 通期見通しは据え置き。

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

| | FY19 Q1 | FY20 Q1 | FY21 Q1 | 前年比 | 主な増減内訳 (Q1) | FY21 予想 |
|---------------------|------------|------------|------------|------|--|------------|
| | a | b | c | c-b | | d |
| 売上高 | 2,263 | 1,765 | 2,188 | +423 | +423億円(+24%) 5ページ参照 | 8,800 |
| 営業利益 | 49 | ▲12 | 38 | +50 | +50億円 | 260 |
| (率) | 2.2% | ▲0.7% | 1.7% | +2.4 | 6ページ参照 | 3.0% |
| 持分法投資損益 | ▲3 | 0 | 21 | +21 | | - |
| 為替損益 | ▲4 | 1 | 2 | +1 | | - |
| 経常利益 | 39 | ▲15 | 58 | +73 | +73億円 | 240 |
| (率) | 1.7% | ▲0.8% | 2.7% | +3.5 | | 2.7% |
| 特別損益 | 4 | 137 | 18 | ▲119 | ・特別利益：▲204 (229→25) | ▲35 |
| 法人税等 | 22 | 40 | 29 | ▲12 | ・特別損失：+84 (▲92→▲7) | - |
| 非支配株主に帰属する 当期純利益 | ▲2 | 4 | 5 | +1 | | - |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 23 | 78 | 42 | ▲36 | ▲36億円(▲46%) | 120 |
| (率) | 1.0% | 4.4% | 1.9% | ▲2.5 | 特別利益： ・過年度社会負担金還付額(17:Q1) ・固定資産処分益(6:Q1) | 1.4% |
| 銅建値 平均 | 717 | 616 | 1,104 | - | | 1,000 |
| 為替 平均 | 110 | 108 | 110 | - | | 105 |

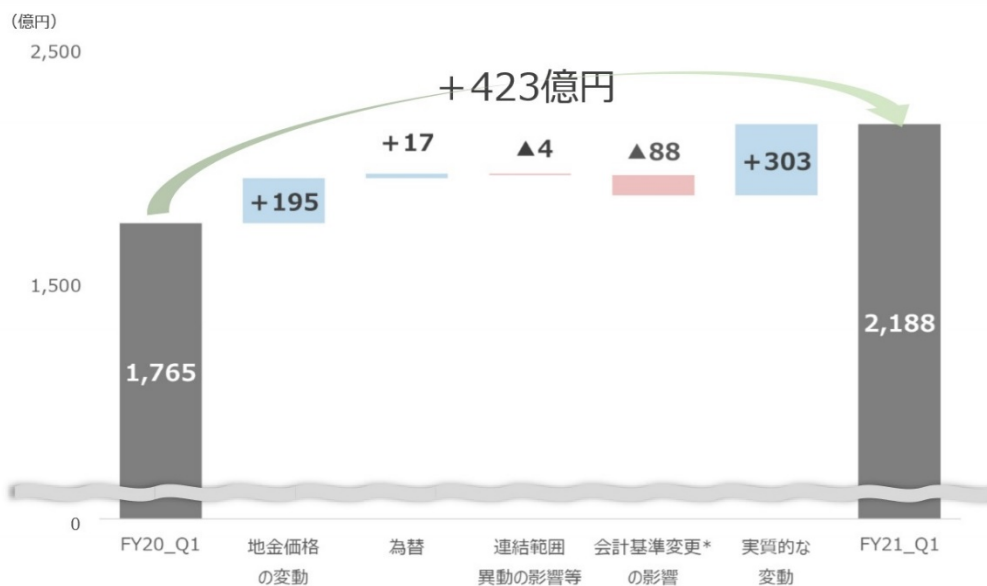
*2021/5/12公表

こちら 2021 年度第 1 クォーターの要約の PL でございます。実績につきましては、真ん中のハイライトしている部分となります。数字については先ほどご説明したとおりでございます。

この中で銅建値平均 1,104 円ということで、昨年の実績に比べると大幅に銅価が上昇しております。為替につきましては大きな変動はございません。

2021 年度の予想につきましては、売上、各段階損益とも据え置きとさせていただいております。銅の建値は 1,000 円、為替は 105 円というところで前提を置いているというところでございます。

売上高の増減要因（前年比）

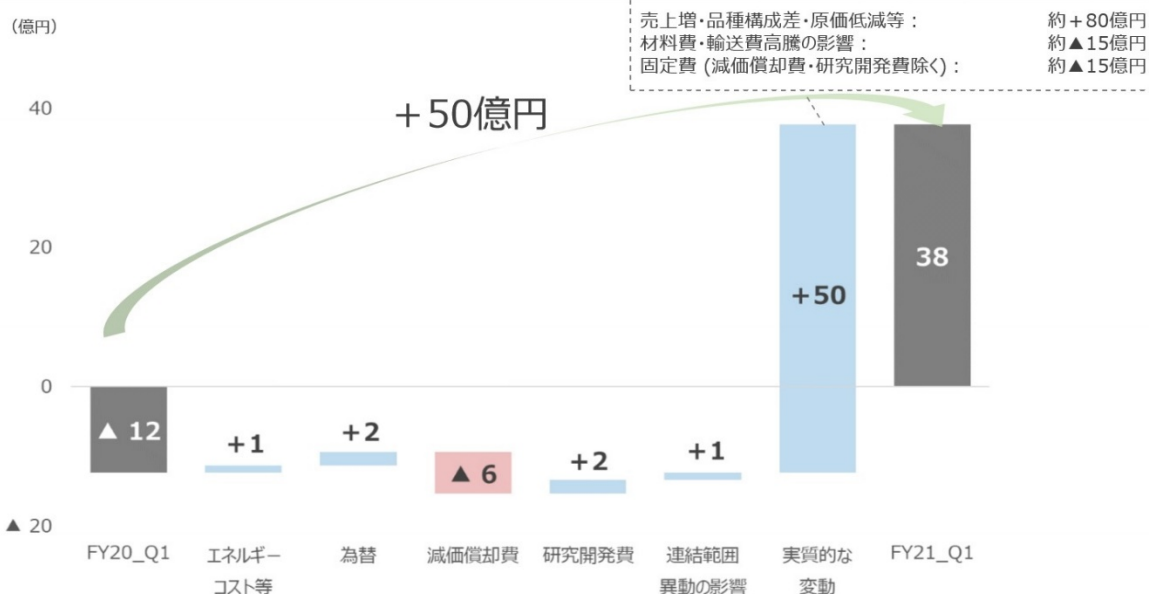


*2021年度決算より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を採用

5 ページ、売上高の増減要因でございます。こちらは先ほど申し上げた銅価の上昇がございますので、地金変動の影響で 195 億円のプラスということになっております。

一方で、収益認識基準適用ということでの会計基準の変更に伴いまして、マイナス 88 億円という影響が出ております。実質的な変動ということになりますと、プラス 303 億円という結果となっております。

営業利益の増減要因（前年比）



6 ページ、営業利益のウォーターフォールでございます。

昨年はマイナス 12 億円という結果でございましたが、今第 1 四半期に関しましては 38 億円のプラスとなっております。

エネルギーコストから右、いくつか特殊要因ございますが、実際これらの数字は相殺されて 50 億円の数字が、従来の説明の仕方と合わせますと、実質的な変動 50 億円と一致する数字となります。ただし、この中身を分析してまいりますと、材料費・輸送費の高騰の影響というものがございまして、こちらが約マイナス 15 億円。

そして固定費でございますが、売上回復局面ということで、いわゆる工場の間接スタッフ、こちらを定常レベルに戻すということで、こちらの増加が主なものとなります。こちらで約 15 億円。

売上増であったり品種構成差であったり、原価低減によるプラスというものが 80 億円という結果となります。

セグメント別売上高および営業利益

■ 通期見通しは据え置き。

(単位：億円)

【参考】
会計基準変更前の場合
の売上高

【参考】
会計基準変更前の場合
の売上高

| | Q1 | | | | Q1 | | 通期 | | | | 通期 | | |
|------|--------------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|--------|
| | FY19 | FY20 | FY21 | 前年比 | FY21 | 前年比 | FY19 | FY20 | FY21 | 前年比 | FY21 | 前年比 | |
| | 実績 | 実績 | 実績 | | 実績 | | 実績 | 実績 | 実績 | | 予想 | | 予想 |
| | a | b | c | c-b | c' | c'-b | a | b | c | c-b | c' | c'-b | |
| 売上高 | インフラ | 677 | 562 | 698 | +135 | 714 | +151 | 2,809 | 2,592 | 2,800 | +208 | 2,882 | +290 |
| | 情報通信ソリューション | 402 | 363 | 448 | +85 | 448 | +86 | 1,664 | 1,583 | 1,750 | +167 | 1,765 | +182 |
| | エネルギーインフラ | 275 | 200 | 250 | +50 | 265 | +66 | 1,145 | 1,009 | 1,050 | +41 | 1,117 | +108 |
| | 電装エレクトロニクス | 1,280 | 925 | 1,182 | +257 | 1,239 | +314 | 5,093 | 4,330 | 4,800 | +470 | 5,126 | +796 |
| | 自動車部品・電池 | 607 | 515 | 588 | +73 | 608 | +93 | 2,576 | 2,351 | 2,600 | +249 | 2,644 | +293 |
| | 電装エレクトロニクス材料 | 674 | 410 | 594 | +184 | 631 | +221 | 2,517 | 1,980 | 2,200 | +220 | 2,482 | +502 |
| | 機能製品 | 294 | 257 | 299 | +43 | 316 | +59 | 1,159 | 1,147 | 1,150 | +3 | 1,240 | +93 |
| | サービス・開発等 | 123 | 103 | 105 | +2 | 103 | ▲0 | 503 | 387 | 370 | ▲17 | 374 | ▲13 |
| | 連結消去 | ▲112 | ▲82 | ▲96 | ▲14 | ▲96 | ▲14 | ▲420 | ▲340 | ▲320 | +20 | ▲320 | +20 |
| | 連結合計 | 2,263 | 1,765 | 2,188 | +423 | 2,276 | +510 | 9,144 | 8,116 | 8,800 | +684 | 9,302 | +1,186 |
| 営業利益 | インフラ | ▲4 | ▲1 | 3 | +3 | | | 17 | ▲21 | 55 | +76 | | |
| | 情報通信ソリューション | 1 | 2 | 0 | ▲1 | | | 16 | ▲2 | 45 | +47 | | |
| | エネルギーインフラ | ▲4 | ▲2 | 2 | +5 | | | 1 | ▲19 | 10 | +29 | | |
| | 電装エレクトロニクス | 35 | ▲18 | 19 | +37 | | | 148 | 59 | 140 | +81 | | |
| | 自動車部品・電池 | 27 | ▲18 | 8 | +26 | | | 109 | 50 | 120 | +70 | | |
| | 電装エレクトロニクス材料 | 8 | ▲0 | 11 | +11 | | | 39 | 9 | 20 | +11 | | |
| | 機能製品 | 19 | 11 | 20 | +9 | | | 75 | 63 | 90 | +27 | | |
| | サービス・開発等 | ▲1 | ▲4 | ▲3 | +1 | | | ▲3 | ▲17 | ▲25 | ▲8 | | |
| | 連結消去 | ▲1 | 0 | ▲1 | ▲1 | | | ▲1 | 1 | 0 | ▲1 | | |
| | 連結合計 | 49 | ▲12 | 38 | +50 | | | 236 | 84 | 260 | +176 | | |

*2021/5/12公表

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

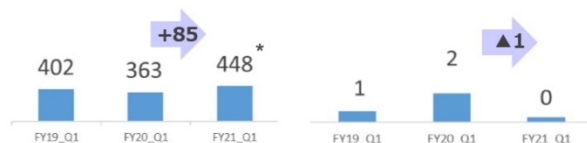
続いて、7ページ、セグメント別の売上高、営業利益をお示しております。

この中では、会計基準変更前の売上高をご参考資料として入れております。特に、前年比較におきまして大きく変動しているところがございますので、会計基準変更前で比較していただくのが、売上を見ていただく場合は分かりやすいかと思っておりますので、ご参考していただければと思います。

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

FY21_Q1実績

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合: 448億円 営業利益 (億円)



【Q1実績: 営業利益対前年比】

- (+) 北米光ケーブル、南米FTTH、LANソリューションで増収
- (+) 北米光ケーブルの生産性は改善
- (+) 国内ネットワーク関連製品は堅調
- (-) 原材料不足および原材料価格、輸送費の高騰
- (-) 北米顧客向け光ファイバ心線販売量の一時的な減少
- (-) デジタルコヒーレント関連製品は顧客在庫調整による需要減
- (-) 減価償却費の増加

FY21_通期見通し

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合: 1,765億円 営業利益 (億円)



【通期見通し】

- ・ファイバ・ケーブルは北米（ローラブルリボンケーブル、接続部品等）、南米（ソリューション）、国内いずれも受注は好調。特殊ファイバも好調。
- ・北米顧客向け光ファイバ心線の受注はQ2に入り回復
- ・北米光ケーブルの生産性は着実に改善
- ・デジタルコヒーレント関連製品はQ2以降回復
- ・国内ネットワーク関連製品の受注堅調（売上は下期集中）
- ・原材料価格、輸送費の高騰には、品種構成改善、原価低減、経費抑制等に対応

次、9 ページ、情報通信ソリューションの状況でございます。

第 1 四半期の実績でございますが、営業利益は昨年度からほぼ横ばいでございます。2019 年度から第 1 四半期に関しましては大きな変動ございません。

第 1 四半期につきましては、左の下の部分でございますが、原材料不足、調達が不安定になってしまう部分、原材料価格の高騰、輸送費の高騰といった影響を受けております。加えて、お客様の材料調達の問題から一時的に光ファイバ心線販売量が減少しております。

これに加えまして、デジタルコヒーレント関連も顧客の在庫調整という格好になっております。減価償却費についても増加という状況がございました。

これに対して、北米の光ケーブル、南米の FTTH、LAN ソリューション、こちらは増収でございます。加えて北米の光ケーブルの生産性の改善、こちらは計画どおり進んでおります。国内のネットワーク関連製品も堅調に推移しておるところで、これらのマイナス要因をカバーしておるといった結果となっております。

通期の見通しでございますが、45 億円をそのまま据え置いております。こちらにつきましては、ファイバ・ケーブルに関しましては、北米の需要、こちらは堅調に推移しております。受注も好調でございます。南米の受注も順調に推移しておるといった状況です。

国内に関しまして、第 2 四半期以降受注が入ってきておるものが、確定しているものがございます。その分、売上が上向いてまいります。そのほか、昨年マイナスの影響を受けたとご説明しておりました、医療関係等の特殊ファイバ、こちらも戻ってきておるといったプラス要因がございます。

また、北米顧客向けの光ファイバ心線でございますが、こちらもお客様の調達の課題は解消しておりまして、第2四半期からは回復してきておるところで受注、出荷とも戻ってきております。

さらに北米の光ケーブルの生産性、こちらも次のページでお示しますが、着実に改善しておる計画でございます。デジタルコヒーレント関連も、こちらは受注、第2クォーター以降戻ってきております。下期以降でしっかり取り戻していくところでございます。

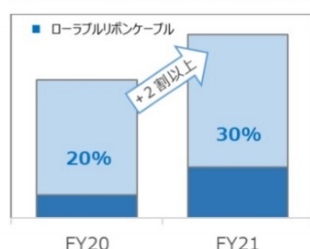
国内ネットワーク関連製品についても受注は好調。さらに例年どおりですが、売上が下期集中型、特に第4四半期に集中いたします。売上、利益が下期偏重型になっておるところで、上期・下期との差になるというところがございます。

原材料価格、輸送費の高騰でございますが、上記のような状況であったり、品種構成改善、原価低減、経費抑制を引き続き進めていくということで、45億円の達成を進めてまいります。

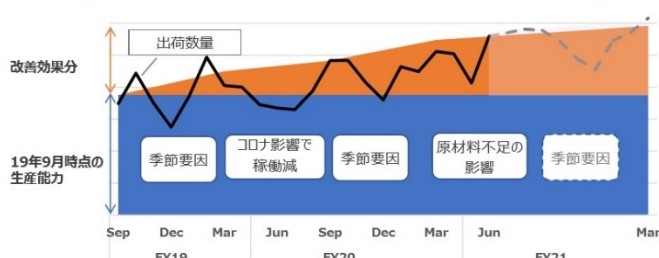
北米光ケーブルの状況

- 北米ローラブルリボンケーブルの受注は計画通り
- 生産能力の向上は、原材料不足の影響を受けたものの着実に改善

北米光ケーブル販売見通し



北米光ケーブル生産能力および出荷数量推移



次、10 ページ、北米光ケーブルの状況でございます。

北米の光ケーブル販売見通しは今年度、全体ではローラブルリボンで 2 割以上増加を見込んでおります。

この中で主力商品、戦略商品でございますローラブルリボンケーブル、こちらを 20%から 30%に伸ばすという計画で、受注に関しましては計画どおりに進んでおります。受注も着実に増えてきておるとい状況でございます。

生産能力でございます。右の表になります。こちらにつきましては、点線、こちらが今後見込んで数字の動きでございます。冬場にかけては、やはり季節要因はあろうというところで、今年度も一時的な下落を見込んでおりますが、これを前提にした予想となっております。

もう一点、5 月ですが、いったん数字が落ちております。こちらは原材料調達不安定になってしまったというところで、ものづくりをする生産計画のタイミングで材料調達が遅れてしまったという影響を受けております。

生産性改善そのものは進んでおるんですが、その影響で一時的に止まった影響が出たというところがございます。この問題に関しましては、すでに複数購買であったり、代替品、そういった対応が進んでおりますので、7 月以降に関しましては、今のところ大きな問題は出ていないという状況となっております。

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

FY21_Q1実績

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合：265億円 営業利益 (億円)



FY21_通期見通し

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合：1,117億円 営業利益 (億円)



【Q1実績：営業利益対前年比】

- (+) 海外海底線および国内地中線案件は想定通りの進捗
- (+) 中国子会社は堅調に推移
- (+) 国内建設・電販市場向けの需要は緩やかに回復

【通期見通し】

- 海外海底線、国内地中線案件は期初想定通りの進捗見込み
- 国内建設・電販市場向け需要は緩やかに回復。機能線等の拡販とさらなる原価低減推進
- 新規材料採用に伴う評価費用の一時的発生は2020年度で終了

次、11 ページ、こちらはエネルギーインフラの状況でございます。

エネルギーインフラに関しましては、売上、営業利益、来期四半期、通期見通しともに順調に回復してくる見込みでございます。

昨年度は中国のコロナ影響による中国子会社のマイナス影響、さらには国内の建設全般の産業電線で苦戦していたと。加えて、電力関係の新規材料採用に伴う評価費用の一時費用が発生したということで、これらを合計して約マイナス 25 億円という影響を前年度は受けておりました。

これが今年度は 1 クォーター、すでに改善しておりますし、年度を通して改善する、あるいは一時費用の発生がなくなるという見込みでございます。

加えて、海外の海底線であったり、国内地中線案件、これらは電力向け超高压であったり、再生エネルギー向けも含まれます。こういったものが期初想定どおり進捗しておるということで、こちらも見込みは変わらず 10 億円というところを着実に進めてまいります。

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池)

FY21_Q1実績

売上高 *会計基準変更前の場合：608億円
(億円)



営業利益
(億円)



FY21_通期見通し

売上高 *会計基準変更前の場合：2,644億円
(億円)



営業利益
(億円)



【Q1実績：営業利益対前年比】

- (+) 自動車市場の回復による増収
- (-) 受注案件対応投資による減価償却費の増加
- (-) 半導体、樹脂不足等による顧客の減産および輸送費の高騰の影響
- (-) コロナ影響による東南アジアの一部拠点のロックダウン

【通期見通し】

- 新規車種の立ち上げ、原価低減
- コロナ影響等による港湾の混雑、コンテナ不足等に起因した輸送費増加と物流遅延への対応策実施（安全在庫を積み増しや、グローバルサプライチェーン強化継続を含む）
- 東南アジア拠点のロックダウンによる操業影響を注視

続いて自動車部品・電池でございます。

自動車部品に関しましても、前年度コロナ影響を大きく受けておりました。そのマイナスからプラス 8 億円と改善しております。年間でも 50 億円から 120 億円という見通しは変えておりません。

自動車市場の回復による増収はご説明したとおりですが、一方で受注対応による減価償却費の増加、半導体あるいは樹脂不足というところでのお客様の減産、輸送費の高騰は第 1 四半期で影響は受けております。

東南アジアの一部拠点でのロックダウンも、こちらもマイナス要素として働いております。

通期の見通しに関しましては、新規車種、特にアルミハーネス関係のもの、こちらが立ち上がってまいります。原価低減も計画どおり進んでいく見込みです。

一方でコロナ影響による港湾混雑であったり、コンテナ不足等に起因した輸送費の増加、物流遅延、こちらについてはしっかり対応策を実施していくということで、一つは急激な需要回復も見込まれます。

あるいは、コロナ影響によるサプライチェーンの寸断も懸念されます。その中で安全在庫を積み増して、しっかりお客様に供給していく、さらには実際のものづくりの拠点、複数拠点で対応できるようなかたちを作っていくということで、サプライチェーン強化を継続しております。

加えまして、東南アジアのロックダウンの影響。われわれ共は、マレーシアあるいはインド、こちらが第 1 四半期あるいは第 2 四半期で影響を受けております。

1月、12月の決算期のところが多くございますので、実際影響が出てくるのは1クォーターで一部出ておりますし、2クォーターで出てまいります。

また7月以降はベトナムの拠点、こちらもロックダウンの影響を受けております。

マレーシア、インドに関しましては、マレーシアはロックダウンの状況続いておりますが、インドは順調に回復してきて、今ほぼ影響がない状況になっております。

ベトナムに関しましては、今後影響を注視していくという状況でございます。第2四半期でその状況について改めてお話できるようなことかと思っております。

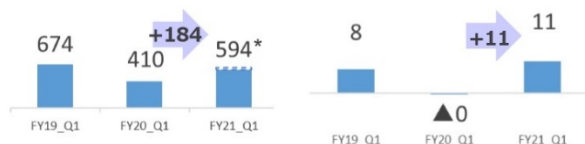
今のところ下期から、半導体であったり樹脂不足、こういったところが解消していくという中で、お客様からは下期への対応を強く要請されております。そこにしっかり応えていくことで、計画どおりの数字を見込みたいと考えております。

2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

FY21_Q1実績

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合：631億円
銅値上昇の影響：175億円

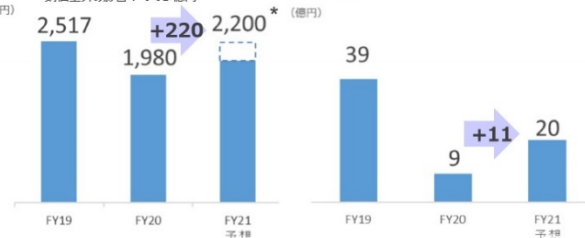
営業利益 (億円)



FY21_通期見通し

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合：2,482億円
銅値上昇の影響：449億円

営業利益 (億円)



【Q1実績：営業利益対前年比】

(+) 車載およびエレクトロニクス関連製品を中心に回復している需要を着実に取り込み

【通期見通し】

- 車載およびエレクトロニクス関連製品の需要は概ね当初想定通りに進捗するとみており、着実に需要を取り込みつつ製品ミックスの改善をさらに推進
- 半導体不足等による顧客の在庫調整、東南アジア拠点のコロナ影響に備え、柔軟な在庫の持ち方に対応
- Q2以降の市況の不確定要素を鑑みリスクを織り込み

次、13 ページ、電装エレクトロニクス材料です。

こちらにつきましては車載、およびエレクトロニクス関連製品を中心に順調に回復しております。そういった中で需要を着実に取り込むことで、第1四半期でプラス11億円、昨年度ゼロでしたから11億円のプラスという結果になりました。

年度を通しましては、9億円から20億円、11億円のプラスということで、第1四半期のプラスをそのまま維持するかたちでの予想にはしております。ただし、足元受注は好調でございます。

加えて製品ミックスの改善等も進んでいる、生産性の改善も進んでいるという中ではございますが、自動車の状況であったり、コロナ影響、こういった影響が起きるか分からない。

特に電装エレクトロニクス材料に関しましては上流工程の商材でございますので、最終マーケットも多岐にわたっております。

実際には、急激に遅れて影響が出るという傾向がございますので、そのリスクを実際には10億円程度織り込んでおりますので、この影響なければ、その分が上積みになったと認識しております。

3 機能製品

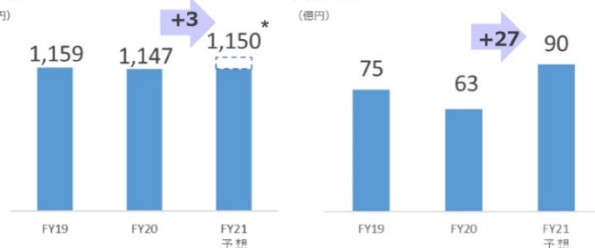
FY21_Q1実績

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合：316億円 営業利益 (億円)



FY21_通期見通し

売上高 (億円) *会計基準変更前の場合：1,240億円 営業利益 (億円)



【Q1実績：営業利益対前年比】

- (+) 銅箔は、台湾拠点の火災復旧による回路用銅箔の受注増および電池用銅箔の需要回復
- (+) 半導体製造用テープ、放熱・冷却製品を中心に、活況な半導体、データセンタ関連製品等の需要取り込み
- (+) 放熱・冷却製品のフィリピン新拠点での製造本格化
- (-) 輸送費、原材料価格高騰の影響

【通期見通し】

- 5G関連、データセンタ関連製品の需要は想定を上回り好調
- 好調な市場における需要の確実な取り込み継続
- 上記により輸送費、原材料価格高騰の影響を抑制

機能製品でございます。

こちらに関しましてもデータセンタ市場であったり、5G 基地局といったところ、その市場が非常に強いという中で順調に売上、利益を伸ばしております。

その中で輸送費、原材料価格の高騰の影響あるのですが、それを上回る需要もあり、製造面での対応ができていくということで、これは第1四半期、年度を通して十分対応できると考えております。

特に銅箔に関しましては、台湾拠点の復旧、こちらが順調に進んでおるところと、それに伴っての回路用の銅箔の受注、こちらも伸びております。昨年度はマイナスで非常に苦戦しておりましたが、第1四半期よりすでに黒字化も達成しております。

台湾拠点の復旧もこれからさらに進んでまいります。銅箔に関しましても、昨年度のような状況からは相当な改善が見込まれるということで、この数字を計画値としております。

2021年度Q1実績—要約B/S

| (単位：億円) | | | |
|-----------------|--------------|--------------|-------------|
| | FY20_Q4末 | FY21_Q1末 | 増減 |
| | a | b | b-a |
| 流動資産 | 4,298 | 4,650 | +352 |
| 現金及び預金 | 844 | 873 | +29 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 1,919 | 2,005 | +86 |
| たな卸資産計 | 1,208 | 1,381 | +173 |
| 固定資産 | 4,022 | 4,098 | +76 |
| 有形固定資産 | 2,467 | 2,503 | +35 |
| 無形固定資産 | 203 | 204 | +1 |
| 投資その他の資産 | 1,352 | 1,392 | +39 |
| 資産合計 | 8,320 | 8,748 | +428 |
| 流動負債 | 3,152 | 3,519 | +367 |
| 固定負債 | 2,252 | 2,253 | +0 |
| 負債合計 | 5,404 | 5,771 | +367 |
| 株主資本 | 2,604 | 2,600 | ▲4 |
| その他の包括利益累計額 | ▲5 | 57 | +62 |
| 非支配株主持分 | 317 | 320 | +3 |
| 純資産合計 | 2,916 | 2,977 | +61 |
| 負債・純資産合計 | 8,320 | 8,748 | +428 |
| 有利子負債 | 2,906 | 3,186 | +280 |
| 自己資本比率 | 31.2% | 30.4% | ▲0.8 |
| NET D/ELレシオ | 0.8 | 0.9 | +0.1 |

現預金
29億円 増加
手元流動性強化

たな卸資産
173億円 増加
銅価上昇の影響
将来売上計上予定のプロジェクト・工事案件等
サプライチェーン寸断リスクに備えた安全在庫積み増し

有形無形固定資産
37億円 増加
設備投資・減価償却費の影響
▲12億円
為替、新規連結等による影響
+54億円

NET有利子負債
251億円 増加
(2,063億円→2,314億円)

29億円 増加
手元流動性強化

173億円 増加
銅価上昇の影響
将来売上計上予定のプロジェクト・工事案件等
サプライチェーン寸断リスクに備えた安全在庫積み増し

37億円 増加
設備投資・減価償却費の影響
▲12億円
為替、新規連結等による影響
+54億円

251億円 増加
(2,063億円→2,314億円)

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

15

15 ページ、こちらはバランスシートです。

バランスシートにつきましては、資産合計で 428 億円の増加でございます。中身を見てまいりますと、現預金では 29 億円増加です。大きく変化はしておりません。

昨年度以降、やはりコロナ影響がございます。

市場の調達状況に関しては、まったく問題がない状況ではございますが、調達という意味合いでのオペレーションリスク。こちらはコロナ感染拡大という局面では、資金調達の実務が回らなくなる可能性がございますので、引き続き手元流動性は確保しておるところでございます。ほぼ前年度末並みを維持したとご認識ください。

たな卸資産に関しましては、173 億円の増加でございます。一つは銅価が上昇しているということ。ここに記載はしておりませんが、新規連結であったり、その他為替の影響等もございます。

これを合わせて、100 億円程度影響が出ておりますので、残りの 70 億円程度が将来の売上計上される予定のプロジェクト、工事案件でございます。

こちらは電力であったり、あるいはブロードバンドであったり、そういったものが第 4 クォーター、年度末の売上に向けて積み増し。さらに自動車のところでもお話ししましたが、サプライチェーン寸断リスクであったり、お客様の急激な立ち上がりに備えてということもございまして、安全在庫、このタイミングでは積み増しております。

ただし、このように基本的に内容につきましては、十分把握できているという状況でございますので、年度末に向けては適正な水準に戻していけると認識しております。

有形無形固定資産に関しましては、ほぼ計画どおりに進んでおります。37 億円の増加でございますが、為替、新規連結等による影響、これが 54 億円ございます。

NET 有利子負債に関しましては、運転資金の増加等もございます。その関係で 251 億円増加しておりますが、年度末に向けては有利子負債、あるいは自己資本比率、NET D/E レシオ、こちらについては計画どおり進めていけると見込んでおります。

■ 概ね想定通りの実績。 通期見通しに変更なし。

(単位：億円)

| | FY19_Q1 | FY20_Q1 | FY21_Q1 | 前年比 | FY21 予想 |
|-------|---------|---------|---------|-----|------------|
| | a | b | c | c-b | d |
| 設備投資額 | 122 | 76 | 72 | ▲4 | 450 |
| 減価償却費 | 71 | 78 | 84 | +6 | 370 |
| 研究開発費 | 54 | 52 | 50 | ▲2 | 220 |

*2021/5/12公表

最後のページでございます。設備投資、減価償却費、研究開発費でございます。

こちら第1四半期の結果から想定どおりの進捗、年度につきましても変更なしと考えております。

このように棚卸資産の部分であったり、あるいは利益であったり、設備投資、こちらはほぼ計画どおりに進んでるところです。年度の事業資産利益率7%という計画を立てておりますが、こちらについてもほぼ計画どおりに進んでるとご認識いただければと思います。

私からの説明は以上となります。